2016 年 11 月 16 日

報道関係者各位

アートフェア東京 2017

会場内セクション「PROJECTS」 12 組の出展者と作家を発表！

一般社団法人アート東京は、12回目の開催となる日本最大級のアート見本市「アートフェア東京 2017」の会場内セクション「PROJECTS（プロジェクツ）」の出展者を発表します。「PROJECTS」では、気鋭の作家の作品を個展形式で展開します。なお、「PROJECTS」出展者の発表を以ってアートフェア東京 2017 全出展者の公開となります。貴媒体でのご紹介をご検討下さいますよう、何卒お願い致します。

■　PROJECTS　～気鋭の作家が魅せる新しさ～　　協賛：ドイツ銀行グループ

「PROJECTS」は、「アートフェア東京 2017」内に設けられるセクションです。12 ブースが一列に軒を連ね、各出展者が 1 組の作家を選出し個展を展開します。

「今、なぜ、その作家なのか。」若手作家や若手ギャラリーという枠組みではなく、今日の世界に向けた「新しさ」を発信する PROJECTS。美術館の展覧会等で既に知られた作家であっても、題材や素材の変遷からその個性を「再発見」し、きっと新鮮な出会いが生まれるに違いありません。

ジャンル・世代を超えた 12 組の作家の凝縮された世界観を見比べることができる「アートフェア東京 2017」で注目のセクションです。



アートフェア東京 2016 「PROJECTS」 会場風景
撮影：岩下宗利

■　PROJECTS 出展者・作家一覧

FUMA Contemporary Tokyo I 文京アート
金巻芳俊　Yoshitoshi Kanemaki

1972 年生まれ。生と死、肯定と否定など、相反するが並存する複雑な感情や事柄を多臂多面像(木彫)として表現している。人間の本質に迫る題材を力強く、ユーモラスに描く作家の力量と造形的魅力を可能にした技術に近年、国内外から人気が高まっている。



《輪想カルマート 2nd》（2016）
楠に彩色、 H56 × W42 × D36 cm
©2016 FUMA Contemporary Tokyo I BUNKYO ART

次ページに続く➡

一般社団法人 アート東京　広報担当： 島田 裕子（シマダ）／ 三木 茜（ミキ）／ 李 一（リ）（海外）
〒106-0041 東京都港区麻布台 1-9-12 飯倉台ビル4階
TEL: ＋81-(0)3-5797-7912 / FAX: ＋81-(0)3-5797-7913 / E-MAIL: press@artfairtokyo.com

雅景錐
詫摩昭人　Akihito Takuma

1966 年熊本県生まれ。フランス哲学者ジル・ドゥルーズの言葉より「秩序づけられた構造や理想から逸脱する運動の軌跡」を主題とし、見えるか見えないかの相反や紙一重の均衡や西洋と東洋の境界をも「逃走」し、刷毛で一気にかき消すことで二項対立をすり抜け、管理不能な美を証明した作品。



《逃走の線 op486》（2016）
キャンバスに油彩、 145 x 112cm
©Akihito Takuma

HARMAS GALLERY
高橋大輔　Daisuke Takahashi

1980 年生まれ。大量の絵の具を使用した抽象画で近年注目を集めている。高橋の絵画は、色彩への強い関心と、美術史上の絵画への洞察、筆の動きの探求が画面上で交錯し、その厚みを増していく。主な美術館での展示に、「NEW VISION SAITAMA5 迫り出す身体」埼玉県立近代美術館等がある。



タイトル未定（2015-16）
油絵の具、パネルにマウントしたキャンバス、
1120 x 1455cm
Photo by SHIIGI SHIZUNE
©Daisuke Takahashi
Courtesy of HARMAS GALLERY

KEN NAKAHASHI
エリック・スワーズ　Erik Swars

1988 年ドイツ・ライプツィヒ生まれ。ネオ・ラオホを代表とする新ライプツィヒ派の系譜を継ぎながらも、斬新な発想でオイルペインティングを始め、版画、彫刻など多岐にわたり作品を発表。作品を通し、「過去の現在の未来の自分」、「国家や政府などの権威と個人との関係」や「自然と人間とのつながり」などについて探求し続けている。最近の作品の多くは、白いキャンバス生地にごく限られた淡い色彩の不透明水彩グワッシュで描き、意識を働かして塗り重ねたり、気の済むまで描き込む事を敢えて行わず、思いがけない筆の動きをそのまま残し、ありのままの姿を形に残そうとしている。



《reiter samurai》（2016）
油彩、画布、キャンバス、170 x 230 cm
©Erik Swars
Courtesy of KEN NAKAHASHI

サテライツ・アート・ラボ
森　勉　Ben Mori

1981 生まれ。日本人の父とアメリカ人の母を持つ。日本的な感性と学生時代を過ごしたアメリカの文化的要素を取入れた独自の世界観を平面作品中心にステンドグラスや立体作品も制作。自身のファッションブランドを展開しつつも、近年はアーティスト活動を主として国内外へ向け発表を続ける。



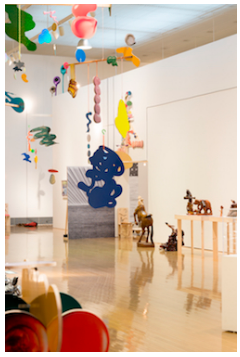
《バタフライ》（2014）
ミクストメディア、径 90.0cm

一般社団法人 アート東京　広報担当： 島田 裕子（シマダ）／ 三木 茜（ミキ）／ 李 一（リ）（海外）
〒106-0041 東京都港区麻布台 1-9-12 飯倉台ビル4階
TEL: ＋81-(0)3-5797-7912 / FAX: ＋81-(0)3-5797-7913 / E-MAIL: press@artfairtokyo.com

Satoko Oe Contemporary

金氏徹平　Teppei Kaneuji

1978 年生まれ。身のまわりの事物を素材に、部分を切り抜き、繋ぎ合わせることで、既存の文脈を読み替えるコラージュ的手法を用いた作品で注目を集める。フィギュアや日用品などの既製品を用いた立体作品から映像、平面作品まで多岐に渡り作品を発表している。



Installation view of solo show "ZONES"
at MIMOCA in 2016
photo:Yuki Moriya

四季彩舎

山村龍太郎毅望　Ryutarotakemochi Yamamura

1976 年生まれ。山村は卓越した技術を武器に群生する植物をどこまでも細かく、徹底して精緻に描いてきた。近年の作品では色彩が省かれ、植物や蟲がひとつの塊となり、画面に強烈な存在感を放ちながら描かれている。今回は自身の出身地である熊本の阿蘇の山々をモチーフとした作品を展示予定。

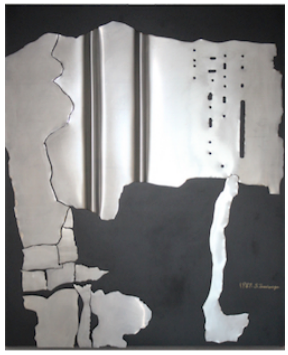


《駱駝山》（2016）
和紙、墨

SHUMOKU GALLERY

富永祥烟　Shoen Tominaga

1929 年名古屋市生まれ。早くから前衛書と抽象芸術に傾倒し、1951 年には、森田子龍の誘いで墨人会に入り「墨人」創刊時より作品を出品、掲載する。脱退後も墨人の精神を最も大切に制作を続け、60 年代以降は、書の研鑽と現代美術家との交流を基にドローイング、コラージュ、自らステンレスを加工した作品など多くの作品を制作する。近年になり、数十年ぶりに墨の作品に戻り、「この時代に書くべき書」をテーマに精力的に創作している。



《象》（1987）
木、ステンレス、100×82cm

SNOW Contemporary

HITOTZUKI

主に壁画制作を中心に活動する、KAMI（1974 年生まれ）と SASU（1974 年生まれ）によるアーティストユニット。HITOTZUKI（日と月）には、男と女、＋と−、陰陽など相反する二つが調和し一つの世界を創るという制作の意が込められストリートカルチャーから派生した美の意識に二人の独特な世界観が交わり、新たな風景を生み出している。



《Planet Bouquet》（2016）
水性アクリル塗料、外壁用アクリルペイント
15.24 x 16.46m
“POW! WOW! LONG BEACH 2016”（2016 年 7 月 10 日−17 日
228 E Broadway Long Beach, CA 90802）
撮影：Brandon Shigeta

一般社団法人 アート東京　広報担当：　島田 裕子（シマダ）／ 三木 茜（ミキ）／ 李 一（リ）（海外）
〒106-0041 東京都港区麻布台 1-9-12 飯倉台ビル4階
TEL: ＋81-(0)3-5797-7912 / FAX: ＋81-(0)3-5797-7913 / E-MAIL: press@artfairtokyo.com

Takashi Somemiya Gallery

奥田栄希　Eiki Okuda

1985年生まれ。古いテレビゲームを題材に映像、平面表現を試みてきた奥田は、近年市販のゲーム機で動作するインタラクティブなゲーム作品の制作に取り組み始めている。その過程はゲームプログラムを作成し、基盤にハンダ付け、一つのカセットにパッケージするところまで全て手作業で行われる。2008年群馬青年ビエンナーレ奨励賞受賞。



《MEGIO》（2016）
ミクスドメディア、サイズ可変
©Eiki Okuda
Courtesy of Takashi Somemiya Gallery

ギャラリーヤマキファインアート

中山明日香　Asuka Nakayama

1986 年生まれ。「自然と人間の関係性そのものが相互に共存と支配の入り交じったものである」ことを表現したいという彼女の視線は、自然と人工的なものが、共存している「庭」という空間に向けられ、「不在」によって象徴的される人間の気配を清々しい色彩で表現している。



《edible garden》（2010）
キャンバスに油彩、230×390cm

Yoshimi Arts

館　勝生　Katsuo Tachi

1964 年生-2009 年没。ニューペインティングの影響を受け、大きなストロークによる有機的な形象の平面作品を数多く発表。“関西ニューウェーヴ”の作家として注目を集める。自身のアイデンティティをありのままに表現しているという館の平面作品には躍動と静止、そしてその時間の経過さえも集約されている。



《December.10.2008》（2008）
油彩、キャンバス、 91.0×91.0 cm
©Katsuo Tachi
Courtesy of Yoshimi Arts

広報資料とお願い

- 本リリース内の広報用画像は、全て参考作品画像です。全ての作品が必ず PROJECTS に出品されるわけではありません。参考作品画像はアートフェア東京 2017 広報のみにご使用ください。
- 作品の無断転載、複製、改変その他一切の著作権及び著作者人格権侵害行為を禁じます。
- 広報用画像の掲載には、やむをえない場合を除き、キャプションの明記が必要です。
- 図版のトリミング・加工等はご遠慮ください。
- 情報確認の為、可能であれば、校正原稿を下記広報担当までお送りください。
- 掲載見本をご寄贈ください。Web サイトの場合は掲載時に URL をお知らせください。
- 報道ご関係者様からの本リリースに関するご質問や、PROJECTS に関するご取材は、下記の広報担当までお問い合わせください。

【アートフェア東京 2017 広報】 press@artfairtokyo.com / Tel: 03-5797-7912

一般社団法人 アート東京　広報担当： 島田 裕子（シマダ）／ 三木 茜（ミキ）／ 李 一（リ）（海外）
〒106-0041 東京都港区麻布台 1-9-12 飯倉台ビル4階
TEL: ＋81-(0)3-5797-7912 / FAX: ＋81-(0)3-5797-7913 / E-MAIL: press@artfairtokyo.com

【アートフェア東京 2017　開催概要】

名　　称: アートフェア東京 2017　（英語表記:ART FAIR TOKYO 2017）
主　　催: 一般社団法人 アート東京／テレビ東京／BSジャパン
企 画 内 容: 国内外コマーシャルギャラリーによる美術品の展示及び販売

開 催 日 程: 2017 年 3 月 16 日(木)～ 3 月 19 日(日) 4 日間

ファーストチョイス	3 月 16 日(木)	16:00 ～ 18:00
オープニングプレビュー	3 月 16 日(木)	18:00 ～ 21:00
プレスプレビュー	3 月 16 日(木)	16:00 ～ 21:00
特別先行入場	3 月 17 日(金)	11:00 ～ 13:00
一般会期	3 月 17 日(金)	13:00 ～ 20:00
	3 月 18 日(土)	11:00 ～ 20:00
	3 月 19 日(日)	10:30 ～ 17:00

会　　場: 東京国際フォーラム・ホール E 及びロビーギャラリー(予定) (東京都千代田区丸の内 3-5-1)
入 場 料: 前売り券=1DAY パスポート 2,300 円(税込)／当日券=1DAY パスポート 2,800 円(税込)
後　　援: 外務省 ／ 経済産業省 ／ 文化庁 ／ 観光庁

オーストラリア大使館	アフガニスタン・イスラム共和国大使館	モザンビーク共和国大使館
ブリティッシュ・カウンシル	イラン・イスラム共和国大使館	ナミビア共和国大使館
ベリーズ大使館	パキスタン・イスラム共和国大使館	ニカラグア共和国大使館
ボスニア・ヘルツェゴビナ大使館	駐日バーレーン王国大使館	パラオ共和国大使館
駐日ブラジル大使館	レソト王国大使館	駐日パナマ共和国大使館
ブルキナファソ大使館	オランダ王国大使館	ペルー共和国大使館
カナダ大使館	バングラデシュ人民共和国大使館	サンマリノ共和国大使館
在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本	中華人民共和国駐日本国大使館文化部	セネガル共和国大使館
駐日ハンガリー大使館	駐日アルメニア共和国大使館	シンガポール共和国大使館
駐日アイルランド大使館	在日アゼルバイジャン共和国大使館	駐日フィリピン共和国大使館
イスラエル大使館	駐日ブルガリア共和国大使館	駐日ミャンマー連邦共和国大使館
駐日イタリア大使館	チリ共和国大使館	チュニジア共和国大使館
駐日ジャマイカ大使館	コロンビア共和国大使館	ウズベキスタン共和国大使館
マレーシア大使館	ジブチ共和国大使館	ロシア連邦大使館,ロシア連邦交流庁
スペイン大使館	ホンジュラス共和国大使館	シリア・アラブ共和国大使館
スイス大使館	インドネシア共和国大使館	在日メキシコ大使館
在日アルゼンチン共和国大使館	ケニア共和国大使館	駐日韓国大使館 韓国文化院
東ティモール民主共和国大使館	駐日ラトビア共和国大使館	デンマーク大使館
ドミニカ共和国大使館	レバノン共和国大使館	ノルウェー王国大使館
ドイツ連邦共和国大使館	マケドニア共和国大使館	タイ王国大使館
サモア独立国大使館	マダカスカル共和国大使館	アメリカ合衆国大使館
日本赤十字		
日本経済新聞 ／ 文化放送		
金沢市 ／ 富山市		

協　　賛: 寺田倉庫 ／ ドイツ銀行グループ ／ 株式会社モリモト
ﾒｲﾝﾊﾟｰﾄﾅｰﾎﾃﾙ: パークホテル東京
ｺｰﾎﾟﾚｰﾃｨﾌﾞﾒﾃﾞｨｱﾊﾟｰﾄﾅｰ: 毎日新聞社

2016/11/16 現在

公 式 サ イ ト: http://artfairtokyo.com
お 問 合 わ せ: 一般社団法人 アート東京
〒106-0041 東京都港区麻布台 1-9-12 飯倉台ビル 4 階
Tel.03-5797-7912　Fax.03-5797-7913　E-mail: info@artfairtokyo.com

アートフェア東京とは

アートフェア東京は、毎年春に東京で開催されている国内最大級の国際的なアート見本市。国内外の厳選されたギャラリーが出展し、古美術・工芸から、日本画・近代美術・現代アートまで、幅広いジャンルの作品が展示・販売される。会期中は、歴史に紐づいた日本のアートを発信するだけでなく、東京のアートシーンやマーケットの“今”を伝える企画展示、関連するシンポジウムやパーティーを都内各所で開催する。国際的で多様なアートマーケットのプラットフォームであるアートフェア東京は、アートファンやアート関係者のみならず、各国大使、行政関係者、経済界の主要な人々の情報交換・社交の場として、多くの来場者が訪れる。（2016 年実績:56,300 人）

一般社団法人 アート東京　広報担当： 島田 裕子（シマダ）／ 三木 茜（ミキ）／ 李 一（リ）（海外）
〒106-0041 東京都港区麻布台 1-9-12 飯倉台ビル4階
TEL: ＋81-(0)3-5797-7912 / FAX: ＋81-(0)3-5797-7913 / E-MAIL: press@artfairtokyo.com